

# Next

発行所 一般社団法人茨城県建設業協会  
建設未来協議会

〒310-0062 茨城県水戸市大町3-1-22  
電話 029(221)5126(代)

ホームページ <http://miraikyo.com>

Facebook: <https://www.facebook.com/kensetsumiraikyo/>

発行人 大曾根 理一郎

## 令和元年度基本方針

建設未来協議会 会長 大曾根 理一郎

本会は1993年(平成5年)に設立され、その目的として「建設業に従事する次代を担う経営者が魅力ある建設業の創造と地域の発展に寄与すること」と定めました。社会環境は設立当時と現在では大きく変化しておりますが、その目的は変わることなく、むしろ我々建設産業全体で取組まなくてはならない最も重要な活動目的となっております。今日、我々建設産業の最も重大な課題の一つが後継者の確保、労働力の確保です。人口減少、労働人口の減少の中、他の産業に見劣りする労働環境を改善しなければこの課題は絶対に解決出来ません。魅力ある建設産業を実現する為に、国交省が策定した「働き方改革」の3つのテーマである「長時間労働の是正」、「適正給与・社会保険のミニマムスタンダード」、「生産性の向上」にしっかりと取り組んでいかなければ我々の産業は「選ばれない」のです。良い労働環境は良い人材を採る為の前提条件です。出来ない理由を考えるのではなく、どうしたら出来るのかを皆で考えなければなりません。それこそが「魅力ある建設業の創造」を実現させるのではないのでしょうか。

今年度は2011年に発生した東日本大震災(M9)から8年が経過し、2月26日には政府の地震調査委員会が東北地方の太平洋沖で起こる海溝型地震について、今後30年間で起こるマグニチュード(M)7クラス以上の地震予測を発表しました。それによると先の大震災級の発生確率は「ほぼ0%」としたものの、茨城県沖でのマグニチュード7前半の発生確率は80%とされ、この規模は「阪神・淡路大震災」や「熊本地震」などに匹敵します。また、経済の発展や生活の質向上に大き

く貢献する社会インフラの老朽化が社会問題となっており、膨大な量のインフラの高齢化が急速に進んでいます。日本全体では2033年に道路橋では約63%、河川管理施設では約62%が建設後50年を経過し、今後はこれらの保全が重要な課題となっており、災害への対処も含め、ますます我々建設産業の重要性が増してまいります。その一方、2021年度以降の建設投資の急減を懸念する声もあり、先の労働環境の改善と並行して、経営環境の強化も重要な課題であり、今後は産業構造の改革も含めた議論が求められ、地域企業の経営環境の安定を図らなければなりません。それが延いては緊急時の災害対応や、適切なインフラの維持につながり、「地域の発展に寄与」するのではないのでしょうか。

本会は各委員会・地区会を通じ、関係機関との意見交換、講習会、さらには地域貢献活動、これらの広報活動などを積極的に行ってまいります。また今年度は「平成」から「令和」へと新しい時代を迎えました。「令和」の意味するすばらしい時代となる様に、目的を見据え会員一丸となって様々な課題解決にも取り組んでまいります。最後になりますが、今年度も本会の運営に対し、協会本部、会員の皆様、そして関係諸団体の皆様方のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。



# 令和元年度 第27回定時総会開催

総務委員会 吉原 政文

本協議会の第27回定時総会が令和元年5月10日、水戸市のホテル・ザ・ウエストヒルズ水戸で開催されました。

冒頭、小林会長は作業員の高齢化や人手不足が一番の課題とした上で「子どもたちや学生と直接関わりながら進めていく活動は、もはや必要不可欠。これから進めていかなければならない働き方改革や週休2日の取り組みを実現させるため、会員同士が協力し頑張っ



て参りたい。」と挨拶しました。続いて、(一社)茨城県建設業協会の細谷副会長より「環境の変化にきちんと対応し、会員1社1社が絶えず成長を続ける事が求められている。魅力ある建設業の再生と地域建設産業の活性化を図るため、建設未来協議会と一丸となって活動して参りたい。」とお言葉



茨城県建設業協会細谷副会長



茨城県土木部伊藤部長



常陸河川国道事務所八尋所長

を頂きました。来賓挨拶では茨城県土木部の伊藤土木部長が「建設業は地域に必要な分野。予算の円滑な執行の為に行政サイドと業界サイドで密に連携を図っていきたい。」と述べられ、続いて国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所の八尋所長が「公共事業が今までより増えており、本年度は地域防災担い手確保型や技術提案チャレンジ型など、新規参加を促す発注方式を増やしていく。」と述べられました。

議事では、規約により小林会長が議長に指名され、次の議案審議が行われました。

- 第1号議案 平成30年度 事業報告の件
- 第2号議案 平成30年度 収支決算の件
- 第3号議案 令和元年度 事業計画(案)の件
- 第4号議案 令和元年度 収支予算(案)の件
- 第5号議案 役員改選の件

各議案は、いずれも可決され、この結果、会長には(株)大曾根建設の大曾根理一郎氏が新任、総務担当副会長に櫻井建設工業(株)の櫻井俊一氏、広報担当副会長には(株)高田工務店の高田稔美氏が、人材・システム担当副会長に新井土木(株)の新井紀雄氏、地域貢献活動担当副会長には鈴縫工業(株)の鈴木達二氏がそれぞれ選任されました。

大曾根新会長は就任挨拶で「令和という新時代を迎え、その言葉の持つ意味の通り素晴らしい時代にできるかどうかはわれわれ次第。会員の皆様にはこれまで以上の積極的な活動へのご協力をお願いしたい」と結びました。

懇親会では、石津健光県建設業協会会長より祝辞を頂戴し、多くのご来賓の方出席のもと、卒業生及び新規入会者の挨拶が行われ、卒業生と活動の思い出を語り、本会は幕を閉じました。

# 「建設フェスタ 2018」開催！

前地域貢献活動委員会担当副会長 吉田 長邦



第25回目となる建設フェスタを、平成30年10月27日土曜日（土曜日初開催です！）に、笠松運動公園で開催しました。ここ数年、フェスタ当日の天気が危ぶまれることが多く、今回も当日の早朝までは強い風を伴った横殴りの雨が降っていました。幸い8時過ぎには風雨もおさまり、好天に恵まれました。開会式終了後「天神ばやし保存会」の皆様による、子供たちの太鼓の演奏が聴けて、ほっと心を撫で下ろしたのと同時に、開会式直後のスタートを気持ちよく切ることが出来たのも、皆さんの知恵やご指導のお陰だと心強く感じました。

今回も例年同様、重機の運転体験や試乗には長蛇の列が出来ていました。高所作業車のリフトアップされた架台からの眺めは、保護者の方も喜んでいただけるほどの景色だったと思います。また、予約開始後すぐに満員になってしまうほど大人気の消波ブロックの製作は、コンクリート構造物が出来上がる過程を実際に五感で感じられる体



験で、親子そろって、建設工事におけるものづくりの楽しさを直で感じていただける催しだと思います。

前回から展示の始まった先端技術体験コーナーは、①バーチャリアリティ(仮想現実)で、洪水が押し寄せてくる3次元画像を体験②アシストスーツという装着ロボットにより、重労働を軽減してくれる機器の体験—の2つのブースを設けました。

昨年残念ながら中止になってしまった上棟式も、たくさんの子供たちの参加があり大盛況でした。また、ご登壇いただいたご来賓の方々が投げる、まき餅・まき銭等が澄んだ空気の中、きれいな夕日に照らされてキラキラと輝いている様がとても印象的でした。

最後に、この建設フェスタが今や国内最大の建設イベントとなった理由は、毎回工夫を凝らし、昨年よりも喜ばれる催しにしよう、昨年の反省を生かして今回は更により良いものにしようという、諸先輩から現在の関係者各位へ伝承されている気持ちが来場者の方々に伝わっていることによるものだと思っております。これからも現状に満足することなく、限られた予算の中で、国内最大のイベントに恥じない最良の催しになるよう、常に安全・改善の心構えで全力を尽くしたいと思っております。今後とも関係各位のご指導ご鞭撻を賜り、建設フェスタの理念のもと、この催しを継続していければ幸甚です。



## 円滑な業務へ行政機関と意見交換会

関東地方整備局 常陸河川国道事務所

総務委員会 副委員長 河野 真

平成30年11月14日(水)、常陸河川国道事務所会議室において、意見交換会が開催され、常陸河川国道事務所から八尋裕事務所長、飯田寛之副所長をはじめ、多くの方々のご出席下さいました。

はじめに、八尋所長より「このような意見交換会の場が他の事務所でも行われはじめてという事で良いことだと感じています。建設業界、社会資本に携わる者同士として、与えられた使命は立場が違えども共通の部分は多く、それぞれの立場で何が出来るかを考え、継続的に仕事が出来ていくという事が非常に大切だと思います。本日は忌憚のない意見交換が出来れば良いと思っています。」とご挨拶を頂きました。続いて小林会長より「われわれ業界としましては、建設フェスタ、現場見学会を通して担い手の確保に努めてきました。建設フェスタに関しては全国的にも類を見ない規模の建設イベントになり、現場見学会も県内の高校生、専門学生、大学生と広く参加して頂き、少しずつではありますが新卒者の入職が増えてきました。又、今後高齢労働者の大量離職が予想され、業界としましては雇用改善による担い手



確保、生産性の向上が喫緊の課題であります。本日はこのような課題を含め忌憚のない意見を交わして頂きたいと思います。」と述べました。

次に常陸河川国道事務所から、現場、入札契約関係について、建設未来協議会から活動報告、広報活動についての情報提供を行いました。その後、建設未来協議会からの質疑・要望事項についての意見交換が行われ、最後にフリー討議として4週8休試行工事とICT施工についてのメリット、デメリットなどの意見交換をさせて頂きました。建設未来協議会及び発注者からも忌憚のない意見が出て、有意義な意見交換会となりました。

関東地方整備局常総国道事務所 北首都国道事務所

前県西地区幹事 串田 一仁



平成30年10月2日(火)、茨城県県南生涯学習センターにおいて、意見交換会を開催しました。常総国道事務所近藤進所長、北首都国道事務所山田博道所長をはじめとする多くの方々が出席くださり、建設未来協議会と現場管理の実務や入札・契約制度の取り組みなどについて意見を交わしました。

冒頭のあいさつで、小林会長は「生産性の向

上、週休2日制、担い手の確保などは乗り越えなければならない喫緊の課題」と話し、近藤所長は「働き方改革や生産性向上、ICT施工などを積極的に進めていくために忌憚のない意見交換を」と述べられ、山田所長は「将来の担い手である子どもたちに夢のある業界であることを伝えていくことが必要」と考えを示しました。

議事では、関東地方整備局から主要事業の概要、総合評価の実施方針、週休2日制的取り組み、i-Constructionや設計変更審査会などについて説明がありました。未来協議会では広報誌「NEXT」や、広報委員会の活動などを報告しました。

続く意見交換会では、現場管理実務や入札契約、設計図書、工事書類の簡素化、多様な入札・契約制度の取り組みなど、さまざまな意見交換が行われました。

## 関東地方整備局 下館河川事務所

監事 (前県南地区幹事) 赤塚 剛

平成30年7月19日(木)、下館河川事務所水海道出張所において、意見交換会を開催しました。下館河川事務所から青山事務所長をはじめ、多くの方々にご出席下さいました。はじめに、青山所長より「鬼怒川の災害から3年が経ち、西日本ではさらに大規模な災害も発生している。災害の初動では地元の建設業が不可欠で、地域を守るのはそういった方々であり引き続きパートナーとして協力をお願いできれば。」と期待を寄せたお言葉をいただき、続いて小林会長が「業界では人手不足や生産性の確保、働き方改革への取り組みなど、大きな転換期を迎えている。それらに対応するとともに、災害対応などのためにも地域に必要とされる建設業として残り続けていかなければならない。」と述べました。

議事では工事請負契約の手続き、受発注者の人



手不足、鬼怒川緊急対策プロジェクト後の事業概要などについて意見を交換。建設未来協議会からの質問や要望に対し、事務所側が回答内容を説明するなど、活発な議論が行われました。また建設未来協議会から県西地区の建設ふれあい祭りなどの取り組みが紹介されたほか、事務所側が「地域インフラサポートプラン関東2017」のフォローアップレポートや建設現場の魅力発信看板の設置などについて説明し、大変有意義な意見交換会となりました。

## 茨城県土木部

総務委員会 委員長 (前副委員長) 長山 朋之

平成30年10月5日(金)トプコン関東トレーニングセンター(行方市)において、茨城県土木部と建設未来協議会の意見交換会及び研修会を開催しました。

茨城県土木部検査指導課から橋本課長補佐、中島係長にご出席いただき、(株)トプコン様のご協力のもと開催となりました。

冒頭、小林会長は「今日の研修を機に、少しでもICT技術を身につけていただきたい。」と挨拶され、続いて橋本課長補佐より「会員の皆様と共に勉強していくことが必要と考えています。是非、今回の意見交換会でも忌憚のない意見をお願いします。」とご挨拶いただきました。

研修会では、①ICT適用工事の発注状況と現状について、②3D設計データについて、③実機体



験会(UAV、デジタルスキャナー等)について学び、その後、意見交換会として、「茨城県土木部が発注するICT活用モデル工事(土工・舗装工)の実施要項」の制定(改定)についての情報交換を行いました。特に、【チャレンジいばらきⅡ型】はICT建設機械による施工を義務付けず、3次元データの活用について先行し普及・拡大させるための方式と謳っており、実践を通じてのデータ作成技術の習得を促進し、生産性向上を目的としていることが伺えました。

建設業においては技術者不足が深刻であり、新規入職者の確保が困難な状況であります。その対策の1つとしてICT技術の活用による生産性向上はもはや時流となっていくのではないのでしょうか。

しかしながら、全体的な施工実績が不足しており、課題の抽出に時間がかかることが想定されます。当協議会における情報共有により、広く普及できるように官民一体となり解決に取り組む必要があります。会員の皆様におかれましては、この意見交換会が1つの切っ掛けとなるよう、茨城県土木部様へのご意見・ご要望の提起協力をお願い致します。

衛生的環境を確保  
作業体験に大興奮

## 砂場クリーン作戦遂行！

地域貢献活動委員会 齊藤 卓也

平成30年5月31日(木)に「平成30年度砂場クリーン作戦」を実施いたしました。この企画は地域貢献活動の一貫として第5回目となりますが、毎年大盛況な企画の1つとなっています。これからの未来を担っていく子供たちに安全で衛生的な砂場環境で遊んでもらうことに加え、子供たち自身が砂場をきれいにしたという達成感をもって成長に繋げてもらえればと、地域に貢献する活動として砂場清掃奉仕活動を実施しております。今回は、小美玉市にある「社会福祉法人むつみ会 太陽保育園」様にご協力をいただきました。

作業内容として、

- ①重機、スコップにより砂を場外へ掘り起こす作業。
- ②電動砂振るい機、振るい網（人力）による異物除去作業。



- ③振るい分けによって目減りした砂の補充作業。
- ④口に入れても無害な消毒液散布による除菌・抗菌作業。
- ⑤犬猫等の小動物糞尿害を防ぐ為の防護ネット製作・設置作業。
- ⑥築山の作成、芝張り作業。



り作業。

という流れで行いました。

砂場は大小二つあり、2班体制で行い大きい砂場の方には重機を搬入しての作業になりました。園児たちも一緒に砂の振るい分け作業、重機の搭乗体験をしてもらい普段なかなか体験できないことにふれあい、大興奮の様子でした。作業を終えてみると、小石、枯葉、プラスチック片、金属片などを除去する事ができていました。

今回は園からの要望で築山の作成が新企画として加わり、築山への芝張り作業を園児たちが楽しそうに行っていたことにとっても感激しました。保育園の先生方からは感謝の言葉をいただき、園児達の楽しそうに作業する姿を見て、ますます地域の為に貢献できる委員会として活動できればと強く感じました。そしてその活動が今後の建設産業の発展にも繋がることと確信しました。

## 高萩工事事務所との意見交換会を開催

前高萩・太田地区幹事 中井 将史

高萩・太田地区では高萩工事事務所と常陸太田工事事務所において隔年で意見交換会を行っており、当年度は7月17日に茨城県建設業協会高萩支部会館にて高萩工事事務所と意見交換会を実施しました。高萩工事事務所からは西野清敬所長をはじめ各課課長、検査監など執行部の皆様方ご臨席のもと、管内の事業概要や工事発注状況、また新たな価格帯での発注に関する説明、安全管理に関する講和、そして建設未来協議会の活動報告、質疑応答による意見交換などが行われました。質

疑のなかでICT施工や4週8休に関する質問が出され、県北地域においてはどちらもチャレンジ事業、モデル事業として数本発注するとのことでしたが、まだ問題も多く、急には難しいのではとの意見が多く出されました。

この意見交換会を通して、目まぐるしく変化していく入札制度や施工方法に次世代を担う我々がすみやかに順応し、イニシアティブをとっていくことが必要であると強く感じました。

# 高校性など170人が建設業を体験

## 現場実習・見学会を開催

副会長（前人材・システム委員会 委員長） 新井 紀雄



次世代を担う高校生・専門学校生・大学生を対象に建設事業の正しい理解と魅力を感じていただけるように毎年、現場見学会・現場実習を開催しております。平成30年度は建設現場実習に6つの高校、3つの専門学校の学生、計170名に参加していただき、茨城県建設業協会の会員企業58社が受け入れ、各社で3日間の現場実習を行いました。

建設現場見学会は7つの高校、2つの専門学校、1つの大学から527名の学生に参加いただき、各学校の見学希望現場を1回の見学会で2つ見学しました。

頂いたアンケート結果や先生方のご意見は来年以降につなげていきたいと思っております。

現状建設業界も他業種同様、人材不足・高齢化

が問題となっております。茨城県でも普通科学生対象のインターンシップ、4週8休のモデル工事の実施、労務単価の見直しなど若年入職者の増加に向けての取り組みが強化されており、実習・見学会に参加した生徒さんのアンケート結果からも建設業界への入職の可能性が高まってきています。今後も建設現場で自分の目で見て、感じて将来の進路を決める一助となるように学校関係者の皆様と連携を取りながら事業を実施してまいりますので会員の皆様のご協力をお願いいたします。

結びにこの事業にご協力を賜りました茨城県土木部様、国土交通省様、実習生・見学生を快く受け入れてご指導いただきました会員企業の皆様へ心から御礼申し上げます。ご報告にかえさせていただきます。



## 特例事業承継など税制について学ぶ

副会長（前人材・システム委員会 委員長） 新井 紀雄

平成31年2月5日に茨城県建設技術研修センターにおいて30名の参加のもと「特例事業承継税制」及び「経営を強化する税制対策」講習会を開催しました。

前半は平成30年度に改正された「特例事業承継税制」について増山会計事務所様を講師に迎え、制度を活用した場合のメリットとデメリットについて、後半は「経営を強化する税制対策」について(株)ライフフォースサポート様より保険等を活用した経営強化の手段を学びました。

未来協議会の会員は30、40代が中心の為、近い将来「事業承継問題」に直面する可能性が高く税金や株式、相続、後継者問題などは避けては通れない課題となります。

これらには様々な手段・方法がありますが、どの選択をするのかは経営者の決断です。

今回の講習会では参加者の方々が何かに気づいて今後、最良な選択をする為のヒントになったと思います。

# 測量やログハウスの塗装を体験

## 職業選択の一助に

平成30年11月29日に常陸太田市立里美中学校において中学生への建設業体験学習を行いました。

里美中学校の1、2年生32名に建設業のつくる喜び・楽しさを教えるとともに、将来の建設業入職希望者を増加させる一助とすべく計画実施している当地区会のメイン事業であります。

当日は地区会員の指導の下、重機操作体験、測量体験、ログハウス塗装体験の3工種を一通り体験してもらいました。重機操作体験ではグラウンドの隅を実際に掘削したのですが、思い通りに操作できずもう一回やりたいとの声があがっていました。また測量体験では野球場の塁間、マウンド



## 前高萩・太田地区幹事 中井 将史



からホームベースまでを自動追尾式のトータルステーションを用いて距離を測り、かなりの距離を測定できることから大変驚いていました。そしてログハウスの塗装体験では、木造のユニットログハウスにキシラデコールを塗りました。

閉会式において生徒代表の方より、どれも普段の生活ではなかなかできない貴重な体験をできてよかったとお礼の言葉がありました。製作したログハウスは体育倉庫として寄贈され、大切に活用させていただきますと横倉校長先生よりお言葉を頂きました。生徒たちが将来の就職先として建設業を選ぶきっかけになればと感じました。

# 中学生たちがものづくりの楽しさを学ぶ

## 銚田市立大洋中に倉庫建築

平成30年度のCCⅠ茨城（「茨城県魅力ある建設業推進連絡会議」）「建設業体験学習」は、



## 前鹿行地区幹事 菅谷 一成

10月2日と10月22日の2日間、銚田市立大洋中学校の1年生60名を対象に実施しました。

1日目は、ドローンを用いた測量をコマツ茨城様のご協力を頂き実施しました。ドローンによる最新測量技術に生徒さんたちも興味津々でした。建設業の先進技術をお伝えする事が出来たと思います。2日目は、スタッキングハウス組立作業と重機操作体験を1クラスずつ交代で実施しました。スタッキングハウスは角材を1段ずつ積上げて固定していく方式で、はみ出した接着剤も締めすぎたナットもお構いなしで順調に組み上がっ

ていきました。また、小型バックホウ3台を使っ  
ての重機操作体験では実際に掘削や整地の作業を  
体験し、自分の操作でアームが動く様子に  
生徒たちは目を輝かせていました。

完成したハウスは生徒たちの公募により  
「大洋ハウス」と命名され、11月27日  
の引渡式を経て学校へ寄贈されました。そ  
の後体育倉庫として有効活用されていると  
のことです。

今回体験学習に参加した生徒たちの中か  
ら建設業に興味を持ち将来建設産業に携わ  
る仲間が一人でも多く出てきてくれること  
を願うと共に、体験学習にご協力いただき  
ました茨城県土木部検査指導課、茨城県建

設業協会を始め多くの関係者の皆様に心より感謝  
申し上げます。



## ベンチ製作や校内補修を実施

東海南中学校の2年生 180人

大宮・大子地区幹事 河野 真

平成30年12月4日(火)東海村立東海南中学校  
において、2年生180名を対象に建設体験学習を  
行いました。

当日は重機体験、ベンチ製作、測量体験、校内  
補修の4つの種目を行いました。重機体験ではコ  
マツ茨城(株)様のご協力によりバックホウ2台、タ  
イヤローラー4台を使用し、建設機械を操縦する  
楽しさを体験してもらい、ベンチ製作では5人1  
組での作業により、協力して1つのものを作り上  
げる達成感を体験してもらいました。また、今回  
学校からの要望もあり、校内における補修作業を



行いました。日頃  
生徒達が利用して  
いる階段や犬走り  
などの補修を行  
い、自分たちの学  
校を大切に使う  
ていこうという気持  
ちになってもら  
いました。

この体験学習に  
ついて、生徒から  
は「今日の体験は



ドローンを使って全員で記念撮影

自分の将来への視野を広げるいい機会だったと思  
います」、「建設業は力仕事で男性が行う職業だ  
と思っていましたが、女性でもできる仕事がたくさんあ  
って驚きました」といった感想が寄せられました。また、ド  
ローンによる写真撮影も行い、生徒たちの笑顔が大変印象  
的でした。

ものづくりの楽しさ、達成感を通じて将来への  
職業選択の材料にしてもらおうという目的のもと  
実施した体験学習でしたが、生徒たちとのふれあ  
いの中で、今後もこのような体験を通して建設業  
へのイメージアップを図っていきたいと感じまし  
た。

## 関東地方整備局と積極的に意見交換 本会の増子秀典顧問が新会長に就任

関東建設  
青年会議

平成30年10月9日、ラフレさいたまで2018年度（平成30年度）通常総会ならびに国土交通省関東地方整備局との意見交換会を開催しました。当会議は、関東地方各県建設業協会に所属する若手経営者により組織されています。

総会では、会員相互の情報発信・共有を掲げた事業計画（案）や昨年度の事業報告について報告・承認されました。その後の役員改選では、当県の増子秀典氏が新会長に選出されました。増子新会長は「近年、地震や豪雨災害が全国各地で多発している。地域の安全・安心を担うわれわれ建設業の役割は以前にも増して重要になっている。



業界をあげて働き方改革や生産性向上などに積極的に取り組んでいく必要がある。同年代の仲間と問題を共有し、未来を見据えて建設業界人としての使命や責任を果たすべく活動していきたい」と抱負を述べました。



続けて、同会場で関東地方整備局幹部と当青年会議で、建設業界を取り巻く課題や新技術・施策などに関して意見交換会を実施いたしました。

意見交換会に際しては、関東地方整備局の石原康弘整備局長から「皆様方が日頃ご苦勞されていることを教えていただき、いい建設現場の環境づくりにつながれば思っている。活発に意見を交換していただきたい」とのお言葉をいただきました。

増子新会長のもと、平成30年度・令和元年度は当県が会長県を務めます。今後も、引き続き全力で取り組んで参りたいと存じます。

## 全国から若手経営者ら 500 人が参加

全国建設青年会議全国大会東北ブロック主幹

23回目となる全国建設青年会議全国大会が、平成30年12月4日に、東北ブロック主幹のもと「激甚化する災害から地域を守るために～東北からのメッセージ～」をテーマに経団連会館（東京都千代田区）で盛大に開催され、全国9ブロックから若手経営者ら約500名が参加しました。

冒頭、渡辺大会会長が「災害が頻発している今だからこそ、風化しつつある東日本大震災の経験を建設業が語り継ぎ、危機管理・災害対応に生かすべき」とあいさつし、石井啓一国土交通大臣より「東日本大震災で自らも被災しながら復興に尽力した東北地域建設業の貴重な体験を共有することが、担い手確保に繋がる」と祝辞をいただきました。

その後、五道仁実国土交通省官房技術審議官が「i-Constructionの深化と働き方改革の推進」と題して特別講演し、徳山日出男政策研究大学院大学客員教授が基調講演「地域建設業の使命と伝承」を行いました。

講演を受けて「東日本大震災を風化せず語り継ぐ～地域建設業の果たした役割～」と「社会資本整備の重要性」をテーマに、外部の有識者らと交えてパネルディスカッションを行い、災害時のノウハウを共有する意義や社会資本整備としての公共事業のあるべき姿などについて話し合いました。

建設業の未来を語り、全国の仲間と価値観を共有することで、これからの繋がる大会となったと感じております。

## 週休2日制の現状と課題など共有 於群馬県 北関東三県建設業協会青年経営者等合同会議

平成30年9月4日、群馬県高崎市（ホテルグランビュー高崎）において、茨城県、群馬県、栃木県の北関東三県建設業協会の若手経営者らに加え、千葉県建設業協会の青年部会にもオブザーバーとして参加していただき、「北関東三県建設業協会青年経営者等合同会議」を開催しました。会議では、地域貢献活動や人材育成事業、発注者との意見交換会など、それぞれの事業について報告したほか、各県の週休2日制の現況と今後の見通しなどについて意見を交換しました。

本会議は、各県の建設業協会に所属する若手経営者らが建設産業のあるべき姿と方向性を議論・検討するとともに、各県の活動内容を把握する目的で、平成24年度に栃木県を主幹としてスタートし、今回で5回目を数えます。継続的な開催に

より、各県の関係はより一層深まっていることを感じます。次回（令和元年）は平成28年以来、2回目の茨城県開催となります。親交を深めると共に、お互いが抱える問題・課題について意見を交わし、課題解決の糸口が見えるような有意義な会議にしたいと考えています。



## いばらき「建設フォトコンテスト」を開催

副会長（前広報委員会委員長） 鈴木 達二

広報委員会では、地域社会になくてはならない「未来産業・将来産業」としての建設業をPRすべく、協議会の活動や地域建設業に関する情報を積極的に発信し、メディア露出を図っています。

その一環として、今期は「いばらき「建設フォトコンテスト」」を開催します。これは、建物、道路、橋、ダム、港湾などの地域インフラやその建設現場、そこに携わる人や建設機械など、「建設」をテーマとした写真の撮影、コンテストへの応募、入選作品の鑑賞を通じて一般の地域建設業への理解を深めていただくことを目的とした事業です。

フォトコンテストの応募締め切りは2019年8月15日。インターネットからのWeb応募にも対応しており、スマホ写真も簡単に応募していただけますので、たくさんのご応募をお待ちしております。詳細は下記ホームページ・SNSにて（「いばらき建設フォトコンテスト」で検索）。

フォトコンテストの情報を含め、ホームページ、Facebook、Instagram上では様々な情報発

信を行っておりますので、ぜひ一度アクセスしてみてください。



ホームページ



Facebook



Instagram

## 令和元年度・2年度 役員名簿

新任	地区	役職	氏名	商号
新	大宮・太子	会長	大曾根 理一郎	(株)大曾根建設
新	県南	副会長(総務担当)	櫻井 俊一	櫻井建設工業(株)
新	高萩・太田	副会長(地域貢献活動担当)	鈴木 達二	鈴縫工業(株)
新	県西	副会長(人材システム担当)	新井 紀雄	新井土木(株)
	県南	副会長(広報担当)	高田 稔美	(株)高田工務店
新	大宮・太子	総務委員長	長山 朋之	長山工業(株)
	水戸	地域貢献活動委員長	内藤 裕一郎	(株)内藤工務店
新	水戸	人材・システム委員長	田口 富之	(株)田口工務店
新	県南	広報委員長	栗山 秀樹	栗山工業(株)
新	水戸	地区幹事	横田 修一	(株)横田建設
新	高萩・太田	地区幹事	瀬谷 政行	瀬谷建設(株)
	大宮・太子	地区幹事	河野 真	(株)河野工務店
新	鹿行	地区幹事	郡司 誠	(株)郡司建設
新	県南	地区幹事	鈴木 亮	北都建設工業(株)
新	県西	地区幹事	小倉 健太郎	(株)小倉工務店
	県西	監事	小澤 淳	小沢道路(株)
新	水戸	監事	荒川 繁美	水戸土建工業(株)
新	県南	監事	赤塚 剛	(株)赤塚土木興業
	大宮・太子	顧問	増子 秀典	増子建設(株)
新	県南	顧問	小林 圭一	谷原建設(株)
新	県西	相談役	柴 直樹	(株)柴建設

## ●平成30年度 入会者

地区	氏名	商号
水戸	池田 大輔	コスモ総合建設(株)
県南	成島 隆平	成島建設(株)
水戸	桐原 裕一	(株)桐原工務店
県南	浅野 麻由美	浅野物産(株)

## ●卒業された皆さん

地区	氏名	商号
水戸	北島 博	(有)北島工務店
高萩・太田	後藤 一憲	(株)後藤工務店
県南	篠崎 尚史	(株)篠崎工務店

## 皆様の善意を寄附しました

本年も社会貢献活動の一環として、以下の通り寄付致しました。

【チャリティーゴルフコンペ収益金寄付】

・平成30年12月10日

社会福祉法人同仁会 つくば香風寮(45,000円)

【建設フェスタチャリティーバザー収益金寄付】

・平成30年12月7日

骨髄バンクを支援するいばらきの会(50,000円)

茨城新聞文化福祉事業団(50,000円)

社会に貢献するための活動といたしまして、継続して実施して参ります。

## 編集後記

平成という一つの時代が終わり、令和という新たな時代がスタートしました。建設業も人手不足や労働者の高齢化といった課題を乗り越えるため変革の時を迎えています。建設業協会では働き方改革の一環として本年度6月より第2土曜日を「県内公共工事一斉休工日」に設定し、休日の確保、担い手の確保・育成に取り組んでいきます。

未来協議会でも、多くの方に建設業の魅力を知ってもらうため恒例となっている「建設フェスタ」や、中学生への「建設体験学習」など様々な活動を行っております。また、ボランティア活動なども積極的に行い、イメージアップに努め、建設業で働く労働者を増やして行きたいと考えています。(Y・H)